

事業所の概要表

(平成 30 年 2 月 1 日現在)

事業所名	グループホーム柿の里			
法人名	株式会社 穂波			
所在地	愛媛県宇和島市柿原甲138番地1			
電話番号	0895-23-5858			
FAX番号	0895-23-5868			
HPアドレス	http://			
開設年月日	平成 22 年 4 月 1 日			
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 ( 2 ) 階建て ( 1.2 ) 階部分			
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )			
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人	
利用者人数	18 名 ( 男性 1 人 女性 17 人 )			
要介護度	要支援2 名		要介護1 6 名	
	要介護3 4 名		要介護4 1 名	
要介護度			要介護2 7 名	
			要介護5 名	
職員の勤続年数	1年未満 人		1~3年未満 4 人	
	5~10年未満 15 人		10年以上 人	
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 4 人	
	その他 ( )			
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( <input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約 )			
協力医療機関名	ますだクリニック			
看取りの体制(開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 看取り人数: 3 人 )			

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	27,000 円			
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円			
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円		償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり 1,000 円		朝食: 円 昼食: 円	
	おやつ: 円		夕食: 円	
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ( )			
その他の費用	・ 水道光熱費 23,000 円			
	・ 円			
	・ 円			
	・ 円			

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間		
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 6 回) ※過去1年間		
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間	
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者	
		<input type="checkbox"/> 民生委員 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民	
		<input type="checkbox"/> 利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等	
<input type="checkbox"/> その他 ( )			

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II. 家族との支え合い

### III. 地域との支え合い

### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成30年3月15日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	14	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	8		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3890300076
事業所名	グループホーム 柿の里
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	前田祐子
自己評価作成日	30年 2月 26日

<p>【事業所理念】※事業所記入 いつも笑顔で いきいきと じぶんらしく</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ①ご家族にむけて運営推進会議の報告をする。遠方や諸事情により推進会議に参加できないご家族に向けて、活動状況の報告を二ヶ月毎にお便りと一緒に送り、報告出来ている ②利用者一人一人が理念に沿った介護計画を作成する。利用者、ご家族とのコミュニケーションを図り自分らしく、生き生きと生活が送れるような介護計画を作成している。 ③災害対策、訓練等を地域の方と協力できる体制づくりをする。自治会長を介し近隣にある拘留所を避難場所として承諾して頂き、近隣住民を交え避難訓練をすることができた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 玄関にはスロープを設置している。 庭一面に芝生を整備しており、ウサギや亀を飼育している。 大きい花瓶に桃の花を生けていた。 利用者と一緒に自治会清掃活動に参加している。 また、職員が地域の防災訓練に参加している。 地区の文化祭には、利用者の作品(折鶴ののれん飾り)を出品するのが恒例になっている。 地域包括支援センターの取り組みで、認知症キャラバンメイト講習を他事業所と協力して実施した。</p>
----------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握		<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思いに留意し、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	△	<p>△ 普段の会話のなかで思いを探り希望に添えるよう努力している</p> <p>△ 把握が困難な場合は、本人の情報や行動等を見て、思いをくみとるようにしている</p> <p>△ ご家族等の面会時などに本人のエピソードを聞いているが、できていない方もいる</p> <p>○ 本人の行動をみて気づきがあればケース記録表や伝達ノートに記録し職員間で共有している</p> <p>△ 思いを見落とさないように気を付けているが決めつけてかわってしまう事もある</p>	◎		△	<p>入居時には、私の出来る事、願い、～がしたい、うれしい事などを聞きとり、気持ちシートにまとめている。日々の中で得た情報は、介護計画の更新時を捉えて追加記入するが、情報量は少ない。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握		<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること、できること、できそうなど等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	○	<p>○ 入所時に本人や家族、関係者から情報を聞き取り記録している。入所後も面会時等に話を聞くようにしている</p> <p>○ 本人との関わりの中で声をかけながらできる事を探りてもらっている。自身の役割が楽しみになっている</p> <p>○ 個別のケース記録表に状態を記録し変化があれば職員間でも把握できるようにしている</p> <p>○ 毎日の申し送りやミーティング等で話し合い要因が何か把握に努めている</p> <p>○ ケース記録表や体調管理表で状態を把握しつつも違う変化があればすぐに報告、相談をしている</p>			○	<p>入居時には、家族や以前利用していた介護事業所から聞き取った情報を面接調査表に記入している。生活歴や生活環境等の情報があつた。さらに、馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたことなどについての情報も収集してはどうか。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人、家族・本人をよく知る関係者等を含む)		<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	○	<p>○ これまでの情報や生活の場面から本人が何をしたいか何を必要としているのかを職員間で話し合い検討している</p> <p>○ 一人一人どのような支援が必要か本人や家族からの情報や生活の様子からユニット会議等で話し合っている</p> <p>○ ユニット会議や申し送り時に話し合い課題を明確にしケアに取り組んでいる</p>			○	<p>月1回のユニット会議時に話し合っている。</p>
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画		<p>a 本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。</p> <p>b 本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。</p> <p>c 重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。</p> <p>d 本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。</p>	△	<p>○ 本人や家族からの思いを元にこれまでの暮らしが反映されるように努めている</p> <p>△ 生活状況の報告をし、感じたことや意見をもらい、反映につなげているが、全員には出来ない</p> <p>△ 重度の方は体調管理に重点をおいている。リビングで過して過ったり孤独を感じないように努めている</p> <p>△ 家族の負担を考慮しながら、協力しながら話し合ったケースもある。</p>	○		△	<p>計画作成担当者がケース記録から個々の課題やケアについて拾い出したり、職員から聞き取ったりして計画を作成している。 さらに関係者等とも話し合い、意見やアイデアを反映した計画作成に取り組んでほしい。</p>
5	介護計画に基づいた日々の支援		<p>a 利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。</p> <p>b 介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。</p> <p>c 利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。</p> <p>d 利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。</p>	△	<p>△ 計画の内容を共有できるように、各階ミーティングの時に一人一人の利用者について、気づき、現状の問題点等をだしている</p> <p>△ 計画に沿ったケアの実践ができていないことが多い</p> <p>○ 利用者一人ひとりのケース記録には、日々の本人の言葉、表情、行動など普段と違った事があれば記録している</p> <p>○ 職員の気づきでアイデア等があれば話し合いをしたり伝達ノート等に記録し実践できるように努力している</p>			○	<p>ユニットごとに介護計画書の綴りを作り、共有に取り組んでいる。 介護計画にそってケアが実践できたかを確認するなど、日々の支援につなげるような取り組みは行っていない。 言葉・表情・しぐさなど、また、支援した具体的内容についての記録量は少ない。 伝達ノートに支援方法についての気づきやアイデアを記録しているが、介護計画に基づいた記録、また、個別の記録にはなっていない。</p>

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	出来ている			○	計画作成担当者が期間を確認しながら見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	スタッフの申し送り時にはケアマネも参加し現状把握し見直ししている			△	ユニット会議時、職員は口頭で話し合い現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	通院、入院状態の変化が大きい時には計画の見直しをしている			○	状態変化時や退院時に、家族や医療機関と話し合い見直しを行っている。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	体調変化が著しい時などの緊急性を要する案件がある場合はその都度、ユニット会議を開催している			◎	月1回ユニット会議、2ヶ月に1回職員会を開催し、会議録を作成している 緊急案件がある場合には、ユニットごとに緊急会議を開催し、ユニット会議録を作成している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議は日勤の業務が終了したあとに行き気づきや意見等が活発にできるよう、ゆとりとした中でできるよう工夫している				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	2ヶ月毎の職員会議は、第2週の水曜日と定めている。ユニット会議については、日時が決まれば伝達ノートにて伝えている。殆どの職員が参加しているが、諸事情で参加できない職員もいる。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをついている。	○	口頭で伝えたり、伝達ノートに書き不参加だった職員にも伝えるようにしている			△	会議録を見るよう促したり口頭で伝えたりしているが、正確に伝わったかどうかの確認は行っていない。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしきみをついている。	○	朝と夕の申し送り時や伝達ノートを利用し共有している			○	伝達ノートで確認してサインするしきみをついている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	業務日誌や伝達ノートを利用し共有し伝達ノートを見て確認した職員が署名をするようにしている			○	
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	本人からの発信がない場合も提案し作業を行ったり、絵を描いたりなどの実施をしている				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をついている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴時の着替えを選んでもらっていたりしている			○	食事時の座席は、利用者が選べるよう支援している。おやつは数種類用意して選べるように支援している。
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	意思疎通ができない利用者さんにも、洗濯物たたみやと、得意な絵を書くよう勧めたり行動の見守りをしている				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝・食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	なるべく一人一人のペースに合わせた支援を行っている。入浴については職員のペースになっていることがあるが、無理強いしないようにしている				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	掃除、キッチンの手伝いをしてもらう事が増え、利用者のほうからスタッフに声を掛けてくれる			○	昼食後、お盆拭きをする利用者には職員は「ありがとうございます。助かります」と言葉をかけていた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	普段からの利用者の行動パターンを把握し表情や反応等から思いを汲み取れるよう努力している				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修等の参加や職員会議、ユニット会議等で話し合うようにしている	◎	◎	○	外部研修で勉強したり、職員会議時には利用者への言葉のかけ方などについて話し合っている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声をかけないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	声掛けの言葉使いには気を付けて接するようにしているが、できていないこともある			△	昼食後、タイミングをみてさりげなく「歯磨きにいきましようか」と声をかけていた。 利用者の呼び方や声の大きさなどについては、配慮が必要と感じるような場面が見受けられた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレや入浴の際にはカーテンで仕切ってプライバシーを配慮している				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る際は必ずノックして声掛けし入室している			○	調査訪問時には、利用者の許可を得てノックしてから入室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修、職員会議等で理解している				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	毎日の生活の中で、職員と利用者と共に掃除や洗濯したみなど、できることをしてもらい作業が終わると感謝の言葉を声掛けしている				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が互いに声を掛け合い食事やおやつを時間を共にしたり、昔話をするなどコミュニケーションをとっている				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)	○	トラブルになりそうな場面があれば職員が間に入り回避できている。孤立しがちな利用者も交流会話したりレクリエーションをすることで、楽しい時間を作るようにしている			○	話の合う人と隣同士になるよう座席を配慮したり、反対に、気の合わないような利用者とは、距離を持つことができるように配慮している。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルがあった場合は、間に入り違う話題を提供したり、違う場所に変わってもらって興奮を沈めるよう努力している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	本人や家族の方から、名前や関係性を聞き取りその都度記入しているが把握できていない方もいる				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	生まれ育った場所、又は入所するまでの地域など利用者本人との会話の中で知ったり家族の方に聞いたりしているが、把握も出ていない利用者もいる				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族の方と共に墓参りに行ったりしばらく帰っていない利用者の家へ帰省し馴染みの方たちと過ごしたり、娘さん友達にハガキを出したりしている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来所者には快く出迎え居室やフロアで気兼ねなくゆっくり過ごしていただき、飲み物を出し、時には近況報告をする				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	スタッフと共に買い物に行ったり、庭に出て気分転換したり、おやつをデッキに出て食べたりする。遠出の外出支援は全員参加できるように配慮し、家族の方に声を掛け参加して頂いている	○	○	○	買い物の希望があれば、職員が買い物に行く際、一緒に出かけられるよう支援している。気候の良い時期には、近所の川沿いを歩いたり、庭に出て過ごしたりできるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地区の清掃活動、フェスティバルの作品出展、幼稚園の運動会、お遊戯会、他グループホームでの行事参加をしているが、外出できやすい利用者は回数が多くなるなど、偏ってしまう現状がある				天気の良い日にはテラスに出てお茶の時間を持ったり、ひなたぼっこしたりして過ごせるよう支援している。
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気の良い日に体調をみながら、外気に触れてもらうように心がけている			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者によっては生まれ育った場所、その他産地直送の店、ドライブなど家族と出掛けられるよう努めている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひととき、取り除くケアを行っている。	○	認知症に関する研修を全職員が順に受けられるようにしている。又、ミーティングを定期的に行き、各利用者の担当スタッフの意見をもとにスタッフ全員で考え、支援の工夫をしている				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	全職員で身体機能の低下について把握し日々の生活の中で、自分でできる事は出来るだけ声掛けしたり又は、手助けして利用者本人の意欲の維持・向上に取り組んでいる				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場づくり、環境づくり等)	○	日常生活の中で利用者一人ひとりの心身、体調の状態により変化がある為、声掛け、接し方の工夫をしながら、見守るようにしている	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	利用者の楽しみや役割を見つけ日々生活しているが、まだ把握できていない利用者もいる				むせやすい利用者には、「ゆっくり食べてください」と書いた紙をお膳の前に立て掛けていた。利用者は、それを確認してゆっくり食べていた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者によって出来る事と出来ない事が違っている。また興味のある方、ない方がある為一人一人の役割や楽しめる事を探し取り組んでもらうよう心掛けている	◎	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の清掃、フェスティバルの準備等に参加出来る利用者は職員と参加するが、もう少し参加する機会があればよいと思う				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好みの衣服を選び着てもらっている。髪形はその利用者らしく整えている				
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	入所時、自宅から利用者本人のお気に入りの物を持参してくる為、その後は家族の購入、又は年に一度誕生日にプレゼントとして好みの服などをおく				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者本人が好みそうな服を用意するようにしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	普段着と外出用の服装を心がけるようにしている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできずさげなくカバーしている。(髪、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	着衣、食べこぼし、口の周囲などはさりげなく声掛けしながら出来ているが、髪のはけは介助の必要な利用者には目ごとくが介助なしの利用者には目ごとくどきにくい	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	施設職員にカット出来るものがある為、常に気を付けている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	職員によって髪のカットを行い服装にも気を使っている			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は生活の中で大切な事なので、利用者も楽しみの一つである。材料切り、下膳は自らすすんでしてくれる				ごぼうそぎや豆むきなどの下ごしらえを行えるよう支援している。 下膳や台拭き、お盆拭きをする利用者の様子がみられた。  旧正月には芋のもちを作ったり、春にはつわぶきを煮るなど、なつかしい料理や季節感のある食材を採り入れている。  割れにくい軽い物や取手付きの持ちやすいものなど、みな同じ物を使用している。 少数ではあるが、自分用のカップを使用する人がいる。  職員も一緒に同じものを食べながら見守り、会話を交えて和やかな雰囲気であった。  テーブル席から台所が見えるように座席配置に工夫している。  職員は、これまでに作成した献立表を参考にしながら、管理者が月ごとに立てている。 行事食の内容や調理方法などについて口頭で話し合っている。 栄養士のアドバイスは受けていない。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	材料を切る事は出来て調理となると消極的になってしまふ。独歩の利用者は自分のものや他利用者の下膳も行う				
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来上がった料理を「○○さんが切ってくれました」の一言で笑顔になる。職員「ありがとうございます」で自信、達成感を感じる				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に聞き取った内容を記録し、入所してから分かった好き嫌いを職員間で共有し確認しあっている				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	好き嫌いがあり、メニューによっては代替えし調理している方もいる				
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろいろや器の工夫等)	○	食事を見て楽しんで食べて楽しんでもらえるように配慮している。必要に応じて、調理方法は看護師、ケアマネに相談し食材の大きさや、盛り方、食べ方の工夫をしている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者に合わせて、大きさ、使い勝手の良いものを使用する				
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者と共に食事をしながら楽しく会話したり、ゆっくり食べるように声掛けしながら食事をしている				
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度の利用者はなるべく他利用者と同じ空間で食事をもらい、調理方法は変っても、素材の味が味わえるよう配慮している	◎			
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通して確保できるようにしている。	○	利用者の食べれる量は職員が把握しており、一週間に一度の体重測定において管理している。水分摂取量は昼間はもちろん夜間は居室に飲み物を置き自由に飲めるようにしている				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	利用者により食事の量を変え水分摂取量の少ない利用者に対しては、昼夜間の声掛けて、脱水に気を付けている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員で献立のバランスを考え利用者が食べやすい調理方法に変更することもある				
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理器具の消毒、又は食材の管理を職員ひとりひとりが気をつけている				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの必要性、重要性は職員も理解している為利用者への声掛け又は介助を行っている				歯磨きを自分で行う利用者については本人に任せている。異常などがあれば観察するが、把握までには至っていない。  毎食後、口腔ケアの声かけを行い支援している。義歯の手入れの手伝いをしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	口腔ケアをし義歯の把握は出来るが虫歯、舌の状態は本人が訴えないとわからない				
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診の際、同行した職員から他の職員に伝達し、支援に活かしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	手入れが不十分な場合は声を掛けながら職員と利用者が一緒に行う				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食事の後、利用者に向け口腔ケアの声掛けし十分でない利用者には職員が付き添い支援している				
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	利用者の訴えがあり確認後、必要であれば直ちに歯科に受診している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	安易に紙パンツにする事がないよう気を付けている。必要性について話し合っている				トイレで排泄することを基本に支援している。カンファレンス時には、失禁がある人、調子が悪い人について、必要性などを話し合いパッドや紙パンツ使用を検討して支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘や下痢で不穏や心配になる利用者も多く精神面にも注意をしている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	利用者1人1人の排泄表(体調管理表)を作成し、間隔、量、排尿、排便について把握し変化に気を付けている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	紙パンツを使用せず、パッドの使用で安心して生活出来る判断した時は、パッドで対応している	◎			
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	着脱に時間がかかる方や、足元が不安定な方等の、困難な状況や失敗の要因等の原因を考えている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄の声掛けでは立席しない為、歩行運動という理由で、途中トイレ誘導する工夫をしている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	判断ができる利用者は自分で選択使用しているが、その他の方は、家族と話し合い、昼、夜に使い分けしている方もいる				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者一人一人の状態に合わせてはもちろんだ段階をふんで利用者に不快感を与えないように心掛けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	レクリエーションなどで体操、歩行運動をしているが身体の具合によりそれだけでは自然排便が難しい利用者は薬の服薬となってしまう				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	同じサイクルで利用者平等にゆっくり時間をかけて入浴又はシャワー浴(足浴)をしている。声掛けや介助をして楽しい会話を心掛けている。(午前中約20分、週2~3回)	◎			3日に1回、午前中に入浴できるよう支援している。回数や時間帯について希望は出ていないようだ。入浴を拒む利用者には無理強いをせず、翌日に誘うなどして対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人一人の利用者にあった入浴スタイルを見つけ、一人づつ気持ちよく入浴してもらっている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事はしてもらい困難な事は介助し安全かつ利用者に安心してもらえるよう心掛けている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	一度声掛けをして拒否した場合、時間をおき再び声掛けをする。無理強いをせず声掛けの人を代えたり翌日に交代するなど対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には、必ずバイタルチェックを行い、体調状態を確認し、入浴後も状態を確認している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	個人のケース記録に基づき把握している。				日中、軽い運動やレクリエーションを行う機会をつくり安眠につなげている。入居前から睡眠導入剤や安定剤等を使用している人は、薬剤への思いが強いこともあり使用を継続している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない時は、職員と話をして心を落ち着かせ利用者が安心して休めるように心がけている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	薬剤に頼るのはよくないが本人の要望もあり医師に相談して支援を行っている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者が休める様に声掛けをしその日の温度により空調設備の調整を行う。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	利用者が希望すれば家族への電話をつながぐ、ハガキ、手紙を書きやり取りする方はほとんどいない。				電話や手紙の支援
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀ハガキや短冊に書いてもらうように声掛けし無理強いはせず、必要な手助けを行う。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話する時は事務所ですらないでもらい、事務所又は居室で話してもらっている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙やハガキは本人に渡し、見えない場合は代読したりする時もある				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話を掛けることについて家族等に理解、協力をしてもらい、時に電話や手紙のお願いもすることあり。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解しているがグループホーム内でのトラブルの原因となってしまう為、基本事務所で預かっている。				/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	限られた人になってくるが、購入したいものがある時は職員が同行し本人が欲しいものを購入している。支払いは預かったお金で職員が行っている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	利用者へのみの買い物は行っていないが行きつけの薬局があり理解してもらっている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	希望に応じてお金を使えるようにしているが、所持はしていない。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	物品購入の際には家族に連絡をとり、本人の希望を聞き購入している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入所時に金銭の管理は明確にしているが、本人が納得されない利用者さんは、多額ではなく管理出来る金銭を居室に持っている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族との外出や外泊等の希望があれば対応できている。	◎		△	家族との外出時には、着替えなどの準備を手伝っている。家族の集まりがある際に、自宅まで送迎などを支援したことがある。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りかけできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先には花や植物を置いていたり、庭にはウサギ、亀、メダカ等を飼育している。	◎	○	○	玄関にはスロープを設置している。庭一面に芝生を整備しており、ウサギや亀を飼育している。大きい花瓶に桃の花を生けていた。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	○	季節に伴い、その都度、飾りを変えたり家庭的で安心できるような空間づくり心がけている。	◎	◎	○	居間にはテレビやマッサージ機を設置している。ソファは庭が眺められるよう、向きに配慮していた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	外からの騒音もなく不快感はなく利用者と一緒に掃除もし清潔を保っている。				居間の窓は大きくとっており、自然光が入り明るい。毎日、利用者と一緒にモップ掛けなどで掃除が行き届いている。昔の歌謡曲を流していた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングには季節に応じたレイアウトをし窓からは季節の風景が見られる。一歩出ればテラスもあり時々、おやつ、食事をする事もあ				居間に、お雛様を飾り、壁には今日の日付と献立を掲示している。メダカを飼育しており、利用者が世話できるようエサを置いていた。本棚に童話集などがあ
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでのソファであったり他利用者の居室に訪室したり、会話をする方がいたり、自室で一人で過したり自由である。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に使い慣れた物を持ってきていただいている。趣味のものや飾り等をし居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎		○	居室入口に名前プレートと花飾りを掛けて目印にしている。テレビを見たり、週刊誌を読んで過ごしたりする人がいる。しかし、中には、殺風景を感じる居室も見受けられる。
		a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手すりをつけたり、動線を工夫し安全に生活を送れるようにしている。			○	居室にふた付きバケツを用意して、汚れた下着を自分で入れられるようにしていた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレや各居室など迷わないよう、大きく名前を書いたり、入室禁止の場所は故障中と書くなど、不安や混乱を起こさないような環境を工夫している。				
		c	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	本や雑誌などいつでも読めるように本棚があり、趣味の絵を書いたり、手作業ができるようにしている。				
		a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	危険防止のため2階の階段のところには扉を設置しているが、希望があれば職員と降りるようにしている。玄関は鍵はかけずチャイムや職員の見守りで対処している。	◎	◎	○	玄関にチャイム、センサーを設置している。2階の階段に扉を設置している。1階ユニットは、職員が居間に必ず一人はいるようにしている。帰りたい気持ち強い利用者がある場合は、職員で話し合う機会を持ち、鍵をかけることの弊害を踏まえて支援について話し合っている。
29	鍵をかけないケアの取り組み	b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	契約時に、基本的には鍵はかけないし説明し、やむを得ない場合は家族と話し合い同意を得て、その都度の状態により施錠もあると説明している。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらしないうよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関には鍵はかけず、チャイムを設置し、利用者の行動の見守りや、一緒に外へ出たり気を付けている。				
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個々のケース記録とともに情報をファイルし、いつでも見られるようにしている。				/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	体調管理表を用い、記録に残している。職員が普段の生活の中でいつもと違うことがあればすぐに報告している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になる事があれば、職員から看護師に相談しかかりつけ医に相談、受診をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人、家族が希望するかかりつけ医に受診している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族、本人から希望があれば、希望のかかりつけ医で診てもらい、特に希望がない場合は施設のかかりつけ医に受診している。入所時に施設のかかりつけ医の説明を家族にしている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果はケース記録、日誌に記録し職員間で情報の共有をしている。家族には受診後に結果を報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	利用者の情報提供書を作成する事もあり、生活歴、既往歴から情報を伝え、利用者に関する気になる事も伝えている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	面会をし、利用者の状態、状況を確認したり、連携室との連絡を密にして、退院前にはカンファレンスをし、状態を把握している				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	面会時、受信時には、病院関係者とコミュニケーションをとるようにしている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	普段のかかわりの中で、いつもと違うことがあったり気づきがあれば、看護師に相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	いつでも相談できる				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	体調管理表を用いて利用者の状態を職員が把握し、観察して早期発見に繋がっている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	病状について受診の度、結果報告を受け職員全員で共有している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	1回の服薬に対してその都度3人が確認する。職員同士の声掛けも第一である。声に出しての服薬を気をつけている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後の利用者の変化を細かく観察し変化があれば看護師に報告する。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	利用者の個人記録に記入し、看護師に報告し看護師より家族、医師に報告となる。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時に説明し話し合いをしている。状態変化のたびに家族の気持ちや意向を確認している				入居時には、管理者が事業所の指針を基に説明を行っている。状態変化時には、医師、家族、職員で話し合い、方針を共有している。さらに、利用者の意向や希望についても探ってほしい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	状況の説明をかかりつけ医から、家族にでもらっている。職員にも看護師から情報を伝えている	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員間でよく話し合い、看護師と相談しながらどこまでの支援ができるのかを見極め判断している				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族とよく話し合いカンファレンスを行ってできること、できない事を説明し理解を得ている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	往診時にかかりつけ医に状態を把握してもらっている。家族にいてほしい希望が強い利用者は、家族の協力をお願いしている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の精神的負担、身体的負担が、かからないように配慮している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	職員は内外の感染症の研修に参加している。職員会議においても話し合い理解しているが、ノロやインフルエンザについては多い				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルを作成して職員は理解しているが、訓練はあまりできていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	インターネット、行政からのメールによって、感染症に対する予防や対策について取り入れている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	利用者、職員共にインフルエンザの予防接種を行い、市の情報、テレビ、かかりつけ医等から早めに情報を得るよう努めている				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員はこまめな手洗いを徹底し、インソングがいをするようにしている。来訪者には、消毒液、マスクを用意し玄関に設置している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	イベントや外出支援等の行事の参加や病院等の付き添いも行ってもらっている				毎年恒例の柿の里まつり時には家族に案内しており、8家族ほどの参加がある。外出行事時は参加できそうな家族に声をかけて誘っている。 年6回、広報誌をつくり送付している。担当職員が現状報告をつくり同封している。  広報誌送付時に活動状況報告書を同封している。年度初めの広報誌に職員紹介を行っているが、退職者については知らせていない。  来訪時や来訪する機会が少ない家族には、電話で生活状況を報告して、意見や要望、希望を聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(茶や甘い雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ゆっくり家族と過ごせるように配慮している				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	柿の里まつりや外出支援時には早めに参加を呼び掛けている	○			
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	2ヶ月毎に柿の里だよりと一緒に担当職員が日常の様子等を一筆書き送付している	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	来訪時や電話で直接話をしている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族との関係についてはそれぞれの事情があったりと困難な事もあるが利用者の様子を知らせたり理解をして頂けるよう努めている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	月に2回柿の里だよりを作成し、各家族に送っている		△		
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会はないので、行事等で参加して頂いている時のみになっている				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	起こりえるリスクについては家族に説明しよく話し合っている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時に声掛けをしたり、電話等で現状報告したり希望等を聞くようにしている				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に重要事項を説明し理解を得て契約を交わしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去に至るまでに、しっかりと家族と話し合い理解、納得を得て、次の施設等に転居している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定時には、料金変更理由、内訳を文書で作成し、理解をもらい、同意書を作成し家族の同意を得ている				
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立段階から、近隣の方への挨拶や自治会にも加入し説明を行っている		○		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	自治会の活動の参加や幼稚園の園児との交流があり関係を深めている		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	散歩にでかけると声を掛けて頂いたり話しかける事もあり交流ができるよう努めている				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	近隣の人が畑で作ったものを持ってきて頂いたり、話に来られる事もあるが、機会は少ない				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	普段なかなか来られる機会はないが、行事や推進会議等に参加してもらっている				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティアとしてお手玉の会の方々が月に一回程度来て頂き利用者で交流している				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	一年を通して地区(敬老会等)の行事に参加したりして、懐かしさや、楽しさを感じてもらっているが、1人1人には出て来ない。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近隣の方や自治会、幼稚園、短期大学と定期的に交流している。避難場所として拘置所にも協力して頂いている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族の参加はほぼ遠方の方が多く限られた方が参加して頂いている。あと近隣住民、自治会長、市役所、他施設、地域ボランティアの方等の参加がある	○		○	利用者、家族、地域の自治会長や近隣、ボランティアなどが参加しているが、利用者や家族が参加していない回もある。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	目標達成計画や外部評価について報告し助言を頂いている			○	活動状況やヒヤリハット報告を行っている。目標達成計画や外部評価について報告している。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加して頂いている方全員の意見や助言をもらい、職員会議には報告し活かすようにしている			◎	◎	要望や助言があれば、事業所でどう取り組むか発表している。昨年の会議時に、「事業所の場所がわかりにくい」と意見があり、看板設置につなげ報告した事例がある。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	会議のメンバーはあまり変わらないが、テーマによれば、講師として来てもらう事がある。日程や時間帯については毎回第2火曜日の1時半からと決めている			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録は毎回、市の方へ提出している					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念をスタッフの目の付場所に掲げて意識づけをしている					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関先や誰でもすぐに見える場所に掲示している	○	△			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者、基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者と相談し、職員個々に必要な研修を受講できるようにシフトの調整をしているが、シフトの変更が無理な時はその日の職員に研修へ行ってもらう事もある					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	新人職員が勤務する際は、指導できる職員が行動を共にして、その都度指導していけるように計画を立てている。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	職員個々の努力や勤務状況により給与水準等を変えざるを得ないが、勤務年数、勤務時間による昇給等で職場環境の整備をしている					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	他施設の推進会議の参加、外部研修、相互研修等で情報の共有をしてもらい、新たな情報が職員の意識の向上に繋がるようにしている					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	公休希望、有給の消化等、勤務の調整をしている。場合によっては、ストレスに対する相談も受けている	○	◎	○		代表者は、職員に「相談はいつでも受けます」と伝えている。職員は「発見した時には報告する。その場で注意し合う」ことを認識している。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	内外の研修に参加し、そのことについて職員会議等で話し合いマニュアルも作成している					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	管理者は職員と共に業務についており何でも話せる信頼関係を築いている					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	利用者についてフロアミーティングや申し送り時などで話し合いを情報共有をして防止に努めている			○	虐待防止については、会議やミーティング、申し送り時に話し合っている。職員は「発見した時には報告する。その場で注意し合う」ことを認識している。	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日頃から職員とコミュニケーションをとり日常的に注意を払っている。いつでも話しやすいように努めている					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	内外での研修に参加し理解している					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	現場での状況においては、やむを得ず拘束をしている利用者があり、家族との話し合いや職員間で話し合っている					
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	できるだけ拘束はしたくないが、以前転倒したりして危険防止の為、やむを得ず拘束している方もいる					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	成年後見制度についての研修に行ったり職員会議で説明はしたが理解しているとは言えない					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	成年後見制度を利用している利用者がある。現在、保佐人の利用の方がいる					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	権利擁護に関する制度について、包括支援センター等に話をしなくても連携体制はとっていないが、いつでも相談できる関係は築いている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	各種マニュアルを作成し職員がいつでも見れるようにしている				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救急救命講習を全職員が受けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ひやとした事があれば常にヒヤリハットとして記録している。事故発生時においても速やかに記録し報告している。その都度、職員間で話し合っている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	申し送り時やミーティング時に職員間で話し合い、事故防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	苦情マニュアルを作成しておらず、あまり苦情についての対応方法を理解していないので、マニュアルの作成を急ぐ				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情として受けた事はないが、苦情があった場合は、相談報告するつもりである				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	普段からのコミュニケーションが大切と考えている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日頃の生活の場において、不平不満の言葉があれば耳を傾けて対応している				○ 運営推進会議に参加する利用者は機会がある。介護相談員訪問時の聞き取りなどで機会があるが、意見や苦情はあまり出ないようだ。 ○ 運営推進会議に参加する家族は機会がある。家族来訪時や電話連絡時に聞いている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	契約時に苦情相談窓口について説明している。いつでも意見や要望があれば言ってくださいと声掛けをしている	◎			
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	公的な窓口の情報提供は行っていない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	ミーティングの参加や現場に足を運び、職員の意見、要望等を聞き、職場に反映できるよう努めている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員の気づきや意見などがあればいつでも聞くようにしている。その後ミーティング等で話し合いをし意見を交換している				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	×	全員での自己評価はできていないので次回には取り組めるようにしていきたい				○ 運営推進会議時に、評価や目標達成計画について報告しているが、参加しない家族には報告していない。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価により課題が明らかになり、職員間で何に取り組むべきか話し合うようにしている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	無理がない程度で達成できる課題を作成し事務所全体で取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	報告をしていないので、次回の外部評価時には、評価結果と目標達成計画を報告しようと考えている	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	目標達成計画は職員会議で職員に報告するが、その後の取り組みの成果を確認する事はしていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害時マニュアルを作成し、いつでも職員が確認できるようにしている				○ 近くの施設と協力し合い、そこを避難場所とした避難訓練を実施した。近所の人である運営推進会議メンバーにも参加してもらい、誘導の手伝いをしてもらった。「利用者がどこまで理解できるのかわらなかった」と意見があった。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	主に火災、地震についての訓練を行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	点検は定期的に行っている。非常食用食料品、備品、物品も消費期限等に気を付けている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	近くの拘留所と協力、支援体制を確保し、合同で避難訓練も実施している	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	運営推進会議時に自治会長や近隣住民に助言や協力を求めたりして拘留所の協力を得る事ができた				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	当施設ではできていないが、他の場所で認知症サポーター養成講座を開催する活動をしている				相談支援の取り組みは行っていない。    地域包括支援センターの取り組みで、認知症キャラバンメイト講習を他事業所と協力して実施した。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	なかなか機会はないが、見学にこられたら対応できるようにしている		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	1年に1度、柿の里まつりの開催時には地域の人に来ていただいている				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	近隣の短期大学の実習を受け入れている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域の防災に訓練に参加、柿原フェスティバルに作品を出展し施設の事を地域の人に認識してもらったりと、地域との関わりを大事にしている。			○	